

がん検診受診率アップへの取り組み

がん検診受診勧奨推進事業報告

日本では近年、がんによる死亡者数が増加の一途をたどり、3人に1人はがんで亡くなる“がん大国”となっています(図1)。一方、がん検診受診率が70~80%と高い欧米諸国では、がんによる死亡者数が年々減少し、検診によるがんの早期発見・早期治療の効果が明らかになってきています。

国はおおむね30%前後と低迷する日本のがん検診受診率を、平成29年度までに50%以上に引き上げることを目標に掲げ、がん検診の受診勧奨を行っています。宮崎県でも市町村や職場を中心としたがん検診受診を呼びかける様々な取り組みが行われています。

当協会では宮崎県の委託を受け、平成24年・25年度に「がん検診受診勧奨推進事業」を行いました。

今回は平成25年度に取り組んだ事業についてご報告します。

<事業の概要>

がん検診対象者にリーフレットや電話で検診受診勧奨を行い、その効果を検証しました。

市町村	対象となるがん検診	対象となる方々	受診勧奨の内容	効果検証のための調査
小林市	胃がん検診 大腸がん検診 乳がん検診	40~69歳 子宮頸がんのみ20~39歳 男女5,453人	①リーフレット個別郵送 ②電話による受診勧奨	胃がん検診実施時に「受診のきっかけ(動機)調査」を実施
川南町	子宮頸がん検診	40~69歳 男女1,727人	①1回目リーフレット個別郵送 ②2回目リーフレット個別郵送	検診日程終了後に検診未受診者に対して「検診受診の状況調査」を実施
門川町	胃がん検診のタイミングに合わせて、大腸がん・乳がん・子宮頸がん検診の受診勧奨も実施	40~69歳 男女2,453人	③電話による受診勧奨	

リーフレットの内容

対象者が親しみを持てるようご当地のキャラクターを封筒に印刷し、1回目は検診料金が安いことをアピール(自治体の補助があるため)し、あわせて検診日時、場所等のお知らせを掲載しました。2回目は、それぞれの市町のがんの現状(働く世代にがんによる死亡が多いこと等)を載せ、がん検診による早期発見、早期治療が重要であることを掲載しました。

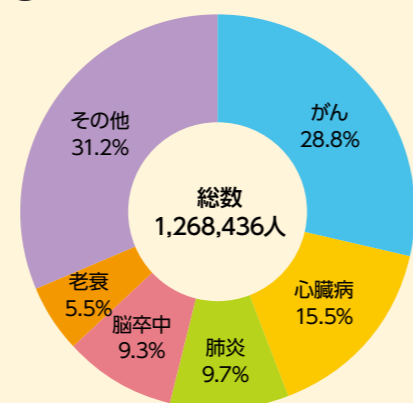
電話による再受診勧奨

電話が繋がりやすい午後6時から8時に4人のスタッフでがん検診の受診勧奨を行うとともに、がん検診の申し込みも受け付けました。

<受診勧奨後の結果(事業前後の受診率の比較)>

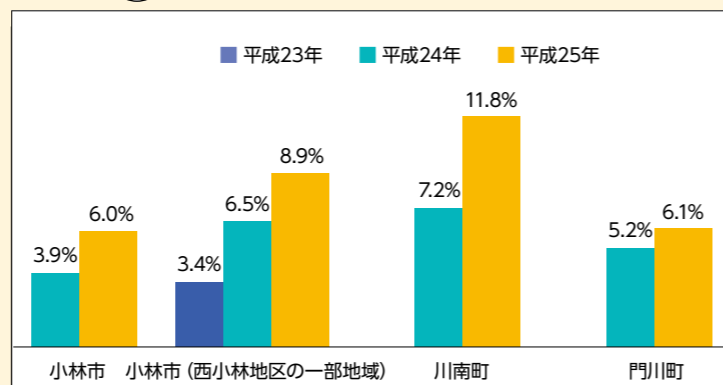
すべての市町において、受診勧奨後の受診率は増加しました。なかでも平成24年・25年度に2年連続受診勧奨を行った小林市西小林地区一部地域は受診率は年々高くなり、平成23年度の3.4%から25年度8.9%と5.5%増加していました(図2)。これは継続的に受診勧奨を行った効果と考えられます。

図1 死亡総数に占める死亡原因の割合



資料 厚生労働省「人口動態統計」平成25年

図2 受診勧奨前後の胃がん検診受診率の比較



*小林市西小林地区の一部地域は2年連続で事業を実施した

<受診勧奨推進事業を終えて(「受診のきっかけ(動機)調査」・「受診の状況調査」結果から)>

平成25年度に事業を行った3市町でこの受診勧奨事業が、胃がん検診のきっかけ(動機)となったと答えた方の割合は、「初めて検診を受けた」が最も高く、川南町では60%以上を占めました(図3)。そして「3年以内に受けた」、「4年以上前に受けた」とした方にも、受診のきっかけ(動機)となったと答えた割合が高くなりました。

このことから、このがんの検診受診勧奨事業は、「初めてがん検診を受ける年齢に達した方々」や「受診間隔の空いている方々」にターゲットを絞って受診勧奨を行うとより効果的であると思われます。

また、リーフレット送付による受診勧奨と電話による受診勧奨では、電話勧奨の方がより受診の動機となっていました。それぞれの受診勧奨の手法は、内容の検討や実施体制の整備等、課題がありますが、今回の結果を基に今後、検討が必要と考えます。

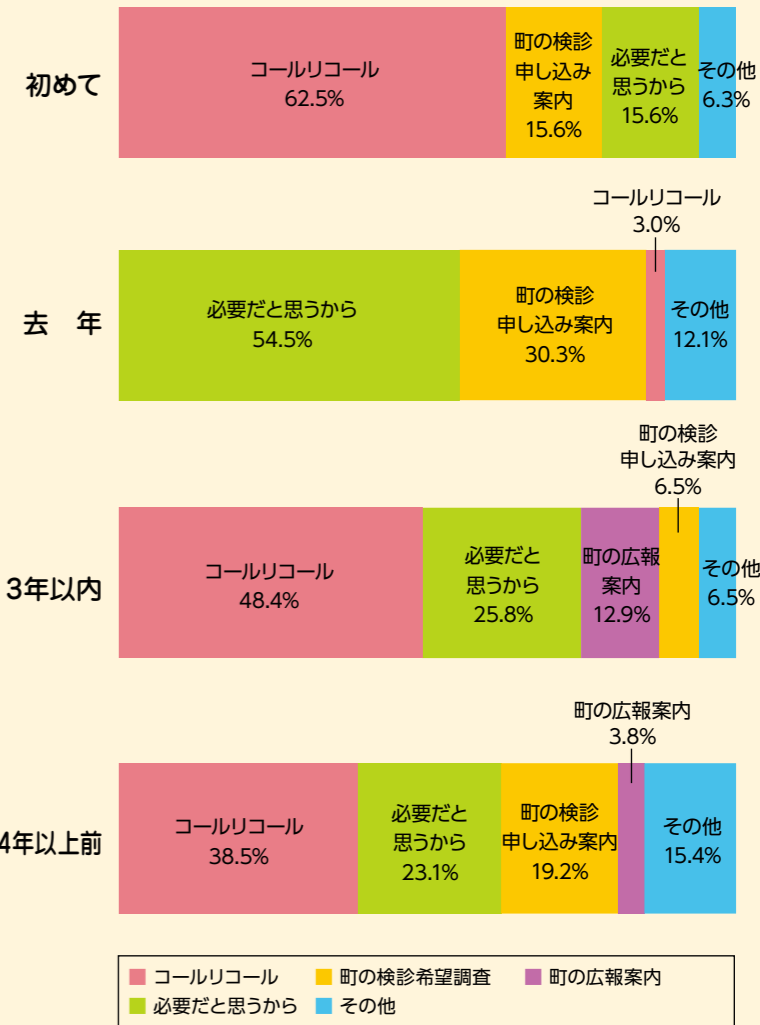
受診状況調査で未受診理由を調査したところ、「日程や時間が合わない」「必要ならいつでも受診できるから」「医療機関を受診しているから」が上位となりました(図4)。

この結果にはがん検診に来てもらうことの難しさが表れています。忙しい毎日の中でがん検診をいかに受診してもらうか、行政をはじめとする関係団体はいくつかの検診を組み合わせ、1回出向くことで複数の検診を受けられるなど、住民にとって利便性が高く魅力的な検診を企画することが必要です。

さらに、がんによる死亡を防ぐためには、定期的ながん検診が必要であることを、若い世代に向けて継続的に働きかけを行い、がん検診を自身の健康管理の一つとして意識付けられることが大切です。

今回の「がん検診受診勧奨推進事業」では、個別に郵送や電話で働きかけることで検診の受診率が増加し、なかでも検診を初めて受ける人の受診のきっかけ(動機)になっていたことがわかりました。より多くの方に等しく検診を受診していただくためにも、県内の市町村で実施できる体制が整備されていくことが望まれます。

図3 川南町の受診のきっかけ(動機)調査結果(受診経験別)



*受診勧奨推進事業をコールリコールと標記

図4 胃がん検診を受けていない理由(3市町)

(検診受診の状況調査より)

